



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月7日

上場取引所 東 大

上場会社名 参天製薬株式会社

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ (氏名) 日比 貴史

TEL 06-6321-7007

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	86,438	5.3	22,220	0.5	23,032	0.9	14,766	0.6
23年3月期第3四半期	82,105	△4.9	22,107	△14.0	22,820	△11.6	14,677	△9.6

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 13,934百万円 (6.5%) 23年3月期第3四半期 13,084百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	169.49	169.33
23年3月期第3四半期	172.43	172.24

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第3四半期	187,577	161,784	86.1	1,852.87
23年3月期	184,801	156,404	84.5	1,793.15

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 161,434百万円 23年3月期 156,098百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	40.00	—	50.00	90.00
24年3月期	—	50.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	116,000	4.7	30,000	△2.4	30,500	△3.1	20,500	△3.9	239.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
なお、当第2四半期連結会計期間より、サンテン・インディア・プライベート・リミテッドを新たに設立したため、連結の範囲に含めています。
また、当第3四半期連結会計期間より、平成23年10月にノバガリ・ファーマ・エス・エーを買収したため、連結の範囲に含めています。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	87,127,603 株	23年3月期	87,053,103 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	1,069 株	23年3月期	464 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	87,122,363 株	23年3月期3Q	85,121,256 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	7
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	7
2. サマリー情報（その他）に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
(4) 追加情報	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報等	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(7) 企業結合等に関する注記	13
4. 連結参考資料	14
(1) 主要製品売上高	14
(2) 医薬品開発状況	15
(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額	17

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

① 当第3四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、抗アレルギー剤、網膜疾患治療剤および角結膜疾患治療剤の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、需要の減少により、前年同期と比べ縮小しました。

このような状況下、当第3四半期の業績は、以下のとおり増収増益となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期増減率
売上高	82,105	86,438	5.3%
営業利益	22,107	22,220	0.5%
経常利益	22,820	23,032	0.9%
四半期純利益	14,677	14,766	0.6%

[売上高]

前年同期から5.3%増加し864億3千8百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業において、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」・「コソプト配合点眼液」、角結膜疾患治療剤「ジクアス点眼液」等の成長に加えて、海外における普及促進活動により、当社製品の市場浸透が進んだことによるものです。

[営業利益]

前年同期から0.5%増加し222億2千万円となりました。

売上原価は269億5千万円となり、売上原価率は31.2%となりました。販売費及び一般管理費については372億6千7百万円となり、このうち研究開発費は122億4千3百万円となりました。

[経常利益]

前年同期から0.9%増加し230億3千2百万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期から0.6%増加し147億6千6百万円となりました。

② 当第3四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他事業の二つのセグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は97.6%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期から4.7%増加し844億3百万円となりました。営業利益は、220億1千1百万円となりました。一方、その他事業の売上高は、眼内レンズ「エタニティー」が順調に市場に浸透した結果、前年同期から38.2%増加し20億3千4百万円となりました。営業利益は、2億8百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	71,755	4.5%	12,648	5.6%	84,403	4.7%
医療用医薬品	68,168	4.8%	12,638	5.6%	80,807	4.9%
うち眼科薬	59,487	4.7%	12,396	8.2%	71,884	5.3%
うち抗リウマチ薬	7,786	2.9%	84	9.1%	7,870	2.9%
うちその他医薬品	895	35.8%	157	△63.5%	1,052	△3.5%
一般用医薬品	3,587	△0.6%	9	41.5%	3,596	△0.5%
その他事業	1,397	30.0%	636	60.2%	2,034	38.2%
医療機器	1,388	30.2%	636	60.2%	2,025	38.4%
その他	8	4.3%	—	—	8	4.3%
合計	73,153	4.9%	13,285	7.4%	86,438	5.3%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開し、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ4.7%増加し594億8千7百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は前年同期と比べ8.9%増加し54億9千3百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高める製品特性と、患者さんや医療現場に対するドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示し、売上高は、前年同期と比べ5.0%増加し152億1千7百万円となりました。また、平成22年4月にドライアイ治療剤として日本での製造販売承認を取得した新製品「ジクアス点眼液」は、平成22年12月に発売を開始し、売上高は19億2千9百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ4.9%減少し98億3千9百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力し、加えてスギ花粉の飛散が前年同期と比べ大規模であったこともあり、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ9.0%増加し18億5千2百万円となりました。

[海外]

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ8.2%増加し123億9千6百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツにおいて新製品の緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ2.9%増加し78億7千万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、前年同期と比べ3.5%減少し10億5千2百万円となりました。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、サンテFX発売20周年記念キャンペーンを中心に販売促進活動に注力しましたが、国内における需要の減少や競合の影響もあり、前年同期と比べ0.5%減少し35億9千6百万円となりました。

[その他事業]

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期から38.4%増加し20億2千5百万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、(株)クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものであり、8百万円となりました。

③ ノバガリの買収について

当社は、平成23年9月27日、ノバガリ（フランス共和国）の発行済株式の約50.55%を取得することでノバガリおよびノバガリの株式保有者と株式譲渡契約を締結し、平成23年10月11日に同株式を取得しました。また、当該株式譲渡契約に基づき、フランス金融市場庁（AMF）の規則に従い、平成23年12月2日から15日にかけて実施した公開買付を通じて、ノバガリの発行済株式の約96.73%を取得しました。この結果を受けて、平成23年12月23日、AMFは、公開買付に応募されなかった残存株式（ノバガリが自己株式として保有する株式を除きます。）の強制取得（以下、「本スキーズアウト」といいます。）を実行するとの決定について公表しました。

当該決定に基づき、当社は、平成24年1月6日、本スキーズアウトの実行によりノバガリの全株式を取得しました。

この買収によって、当社が長期的な経営ビジョンとして掲げる「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向けて、ノバガリの有する研究開発パイプラインと製剤技術を獲得することにより、ドライアイ領域でのパイプラインの強化と製品競争力の向上を実現し、当社の事業基盤を強化できると考えています。

ノバガリの企業結合に関して、当第3四半期の業績に、ノバガリの業績は含まれていません。

④ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF_{2α}誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売中です。欧州では平成20年6月のドイツに始まり、現在、20ヵ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成22年3月以降、香港、韓国、インドネシア、シンガポールで新たに発売しています。中国では承認申請中です。また、平成21年4月には、メルク社（米国）とのライセンス契約締結により、西欧（ドイツを除く）、北米、南米、アフリカにおける販売権をメルク社に許諾しました。メルク社は平成21年9月以降、イギリス、スペイン、イタリアなど合計11ヵ国でタフルプロストを販売しており、米国で承認申請中です。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で36ヵ国となっています。また、平成24年2月に、防腐剤を含まない1回使い切りタイプのDE-118（一般名：タフルプロスト）について、日本で製造販売承認を申請しました。

緑内障・高眼圧症を適応症とするDE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、日本と欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。また、緑内障・高眼圧症を適応症とするアデノシンA_{2A}受容体作動薬DE-112（一般名：未定）は、第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では平成23年12月に製造販売承認を取得し、中国でも承認申請準備中です。ドライアイを含む角結膜上皮障害を適応症とするDE-101（一般名：リボグリタゾン）は、涙液の状態を改善する薬剤として、米国で第Ⅱ相試験を実施中です。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。さらに、選択的グルココルチコイド受容体作動薬DE-110（一般名：未定）も、ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象とする第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

網膜・ぶどう膜疾患領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102（一般名：ベタメタゾン）は、第Ⅱ相／第Ⅲ相試験を日本で実施中です。加えて、網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫についても日本で第Ⅱ相／第Ⅲ相試験を開始しました。また、ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、米国で第Ⅲ相試験を実施中で、日本でも第Ⅲ相試験を開始しました。

外眼部感染症を適応症とするDE-108（一般名：レボフロキサシン（1.5%））は、平成23年6月より「クラビット点眼液1.5%」として、日本で販売しています。また、平成23年10月には、韓国で製造販売承認を申請しました。

アレルギー性結膜炎を適応症としたDE-114（一般名：エピナスチン塩酸塩）は、日本で第Ⅲ相試験を実施中です。

関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。

ノバガリの臨床開発品について、Cyclokot（シクロカット、一般名：シクロスポリン）は、重症ドライアイを適応症として欧州で第Ⅲ相試験を実施中で、米国では第Ⅱ相段階にあります。

なお、春季カタルを適応症とするVekacia（ベカシア、一般名：シクロスポリン）、緑内障・高眼圧症を適応症とするCatioprost（カチオプロスト、一般名：ラタノプロスト）、そして糖尿病黄斑浮腫を適応症とするCortiject（コルチジェクト、一般名：デキサメタゾンパルミチン酸エステル）の3品目は現在、事業性について評価中です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末の資産は、前連結会計年度末と比べ27億7千6百万円増加し、1,875億7千7百万円となりました。現金及び預金の減少などがありましたが、ノバガリ買収によるのれんの増加などが要因です。

負債は、前連結会計年度末と比べ26億5百万円減少し、257億9千2百万円となりました。未払法人税等の支払いなどが要因です。

純資産は、前連結会計年度末と比べ53億8千万円増加し、1,617億8千4百万円となりました。利益剰余金の増加などが要因です。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ1.6ポイント増加し、86.1%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、122億3千7百万円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益は230億6千6百万円であり、法人税等の支払いが92億6千2百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、99億4千5百万円の支出となりました。ノバガリ買収による連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が102億7千8百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、84億8千7百万円の支出となりました。配当金の支払いが85億9千1百万円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ66億9千7百万円減少し、657億8千4百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期の業績は概ね予定通り推移しており、平成23年5月10日に公表した連結業績予想は修正していません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、当第2四半期連結会計期間より、サンテン・インディア・プライベート・リミテッドを新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

また、当第3四半期連結会計期間より、平成23年10月にノバガリ・ファーマ・エス・エーを買収したため、連結の範囲に含めています。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	65,558	57,614
受取手形及び売掛金	38,980	40,147
有価証券	13,332	12,940
商品及び製品	11,784	11,231
仕掛品	449	554
原材料及び貯蔵品	2,469	2,443
繰延税金資産	1,986	1,193
その他	3,106	3,006
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	137,668	129,130
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	40,719	40,494
減価償却累計額及び減損損失累計額	△27,268	△27,877
建物及び構築物（純額）	13,450	12,616
機械装置及び運搬具	11,153	11,084
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,520	△9,575
機械装置及び運搬具（純額）	1,632	1,509
土地	8,216	8,202
リース資産	233	219
減価償却累計額及び減損損失累計額	△47	△55
リース資産（純額）	186	164
建設仮勘定	186	1,466
その他	10,937	11,066
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,653	△9,729
その他（純額）	1,283	1,337
有形固定資産合計	24,956	25,297
無形固定資産		
のれん	—	6,199
ソフトウェア	952	840
その他	39	6,333
無形固定資産合計	991	13,373
投資その他の資産		
投資有価証券	12,141	11,840
繰延税金資産	7,538	6,660
その他	1,505	1,275
投資その他の資産合計	21,185	19,776
固定資産合計	47,133	58,447
資産合計	184,801	187,577

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,031	4,945
未払金	8,444	8,420
未払法人税等	4,631	2,182
賞与引当金	2,712	1,541
その他	2,285	2,436
流動負債合計	24,104	19,526
固定負債		
繰延税金負債	20	2,077
退職給付引当金	3,266	3,290
役員退職慰労引当金	453	206
資産除去債務	160	162
その他	391	529
固定負債合計	4,292	6,266
負債合計	28,397	25,792
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,614	6,670
資本剰余金	7,968	8,025
利益剰余金	147,578	153,636
自己株式	△1	△3
株主資本合計	162,159	168,328
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△443	△316
為替換算調整勘定	△5,618	△6,577
その他の包括利益累計額合計	△6,061	△6,894
新株予約権	305	350
純資産合計	156,404	161,784
負債純資産合計	184,801	187,577

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	82,105	86,438
売上原価	26,190	26,950
売上総利益	55,915	59,487
販売費及び一般管理費	33,807	37,267
営業利益	22,107	22,220
営業外収益		
受取利息	33	37
受取配当金	443	440
為替差益	—	39
その他	364	352
営業外収益合計	841	869
営業外費用		
支払利息	30	17
為替差損	71	—
その他	26	40
営業外費用合計	127	57
経常利益	22,820	23,032
特別利益		
固定資産処分益	5	4
投資有価証券売却益	—	57
会員権売却益	7	—
特別利益合計	12	61
特別損失		
固定資産処分損	7	12
投資有価証券売却損	—	15
投資有価証券評価損	150	—
会員権売却損	1	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	108	—
特別損失合計	268	27
税金等調整前四半期純利益	22,564	23,066
法人税、住民税及び事業税	6,380	6,868
法人税等調整額	1,506	1,430
法人税等合計	7,886	8,299
少数株主損益調整前四半期純利益	14,677	14,766
四半期純利益	14,677	14,766
少数株主損益調整前四半期純利益	14,677	14,766
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△536	127
為替換算調整勘定	△1,056	△959
その他の包括利益合計	△1,593	△832
四半期包括利益	13,084	13,934
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,084	13,934
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	22,564	23,066
減価償却費	2,231	2,075
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	240	28
受取利息及び受取配当金	△476	△477
支払利息	30	17
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,091	△1,279
たな卸資産の増減額 (△は増加)	95	345
仕入債務の増減額 (△は減少)	△571	△1,278
その他	△172	△1,461
小計	20,850	21,035
利息及び配当金の受取額	462	476
利息の支払額	△32	△12
法人税等の支払額	△11,828	△9,262
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,451	12,237
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△4,061	△150
定期預金の払戻による収入	2,329	2,183
有価証券の取得による支出	△1,501	△1,416
有価証券の売却による収入	—	3,038
固定資産の取得による支出	△1,386	△2,690
固定資産の売却による収入	185	5
投資有価証券の取得による支出	△3,684	△1,007
投資有価証券の売却による収入	3	376
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△10,278
その他	—	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,116	△9,945
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	263	—
短期借入金の返済による支出	△789	—
配当金の支払額	△6,702	△8,591
その他	69	103
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,158	△8,487
現金及び現金同等物に係る換算差額	△462	△501
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,285	△6,697
現金及び現金同等物の期首残高	64,348	72,482
現金及び現金同等物の四半期末残高	58,063	65,784

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

1. 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	80,633	1,472	82,105	—	82,105
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	93	93	△93	—
計	80,633	1,565	82,199	△93	82,105
セグメント利益又は損失(△)	22,366	△259	22,107	—	22,107

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	84,403	2,034	86,438	—	86,438
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	86	86	△86	—
計	84,403	2,120	86,524	△86	86,438
セグメント利益	22,011	208	22,220	—	22,220

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. ノバガリの全株式を取得し子会社化したことにより、前連結会計年度末に比べ医薬品セグメントの資産が大幅に増加しています。

② 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

医薬品セグメントにおいて、ノバガリの全株式を取得し子会社化しました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において6,199百万円です。

なお、取得原価の配分が完了していないため、発生したのれんは暫定的な金額です。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 企業結合等に関する注記

当第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年12月31日）

[取得による企業結合]

1. 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 ノバガリ・ファーマ・エス・エー

事業の内容 眼科用医薬品の開発、販売

② 企業結合を行った主な理由

ノバガリは、ドライアイ領域における眼科用医薬品の研究開発を展開する製薬企業であり、一般用医薬品の販売も行っています。当社は、ノバガリの有する高い研究開発力と製剤技術力に着目しました。

特にノバガリが保有する、Novasorb技術(*)を含む優れた製剤技術を獲得する事により、当社の開発品の臨床効果の向上を図ることが可能となり、当社の競争力向上のためには、ノバガリの買収が最適な選択肢であると判断しました。また同社が現在開発中のCyclokat(シクロカット、一般名:シクロスボリン)は、前述のNovasorb技術を使用した、ドライアイ領域では世界的に数少ない後期開発品であり、今後、欧州市場における初の医療用ドライアイ治療剤としての上市が期待できる事により、当社が重点地域とする欧州を含む海外事業の強化が図れると考えています。

* 乳化点眼剤に正電荷を付与する技術で、それにより薬剤の眼表面滞留性と眼内移行性を高めるためのもの

③ 企業結合日

平成23年10月11日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

ノバガリ・ファーマ・エス・エー

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価としてノバガリの株式の100%を取得したためです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益及び包括利益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第3四半期連結累計期間における四半期連結損益及び包括利益計算書には、ノバガリの業績を含んでいません。

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 10,401 百万円

取得に直接要した費用 546 百万円

取得原価 10,948 百万円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん金額

6,199百万円

なお、取得原価の配分が完了していないため、暫定的な金額です。

② 発生原因

取得原価が取得した資産および引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しています。

③ 償却方法及び償却期間

10年間にわたって均等償却します。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上高

(単位:百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成23年3月期		平成24年3月期	
		第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
クラビット点眼液	合成抗菌点眼剤	10,239	12,904	10,062	12,917
レボフロキサシン点眼液		(5.9)	(5.4)	(△1.7)	(0.1)
タリビッド点眼液	合成抗菌点眼剤	1,918	2,419	1,564	2,157
オフロキサシン点眼液		(△0.6)	(△0.2)	(△18.4)	(△10.8)
タブロス点眼液	緑内障治療剤	5,080	6,633	5,617	8,438
タフルプロスト点眼液		(55.2)	(41.5)	(10.6)	(27.2)
コソプト配合点眼液	緑内障治療剤	1,941	2,935	4,629	5,521
ドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液		—	—	(138.5)	(88.1)
チモプトール点眼液	緑内障治療剤	1,726	2,152	1,373	1,254
チモロールマレイン酸塩点眼液		(△24.1)	(△24.0)	(△20.5)	(△41.7)
チモプトールXE点眼液	緑内障治療剤	2,306	2,891	1,922	2,367
チモロールマレイン酸塩持続性点眼液		(△15.9)	(△16.8)	(△16.6)	(△18.1)
デタントール点眼液	緑内障治療剤	1,625	2,064	1,546	2,054
ブナゾシン塩酸塩点眼液		(△4.7)	(△4.8)	(△4.9)	(△0.5)
レスキュラ点眼液	緑内障治療剤	2,200	2,777	1,980	2,146
イソプロピル ウノプロストン点眼液		(△26.3)	(△24.3)	(△10.0)	(△22.7)
リボスチン点眼液	抗アレルギー	1,699	3,800	1,852	3,065
レボカバスチン塩酸塩点眼液	点眼剤	(△11.0)	(17.7)	(9.0)	(△19.4)
ヒアレイン点眼液	角結膜疾患治療剤	16,451	21,257	17,343	22,132
ヒアルロン酸ナトリウム点眼液		(△1.1)	(0.2)	(5.4)	(4.1)
ジクアス点眼液	角結膜疾患治療剤	365	745	1,929	3,298
ジクアホルナトリウム点眼液		—	—	(427.5)	(342.7)
フルメロン点眼液	抗炎症点眼剤	3,278	4,753	3,037	4,145
フルオロメロン点眼液		(△2.9)	(7.2)	(△7.3)	(△12.8)
カリーユニ点眼液	老人性	2,971	3,728	2,923	3,757
ピレノキシ点眼液	白内障治療剤	(2.3)	(0.0)	(△1.6)	(0.8)
オペガンハイ眼粘弾剤	眼科手術補助剤	2,510	3,226	2,369	3,301
ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤		(△7.1)	(△6.0)	(△5.6)	(2.3)
リマチル錠	抗リウマチ剤	3,087	3,944	2,915	3,725
ブシラミン錠		(△10.9)	(△9.4)	(△5.6)	(△5.6)
アザルフィジンEN錠	抗リウマチ剤	3,196	4,106	3,173	4,097
サラゾスルファピリジン腸溶錠		(△4.2)	(△2.6)	(△0.7)	(△0.2)
メトレート錠	抗リウマチ剤	943	1,250	1,293	1,584
メトレキサート錠		(24.5)	(25.6)	(37.1)	(26.7)
一般用医薬品		3,613	4,723	3,596	4,657
		(△10.8)	(△10.1)	(△0.5)	(△1.4)

下段:対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売		
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同	日本						2008年12月		
				欧州							2008年6月	
				米国 (導出)								
				ラテンアメリカ (導出)								2010年8月
				アジア								2010年3月
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、国内での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月、米国等での開発権をメルク社(米国)に許諾。アジアでは香港、韓国、インドネシア、シンガポールにて発売中。中国で承認申請中。												
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	インスパイア	日本						2010年12月		
				アジア						2011年12月		
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月、日本にて発売。韓国で製造販売承認取得、中国では承認申請準備中。												
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本								
視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。												
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	第一三共	米国								
抗炎症作用などに基づく涙液の質及び量の改善効果を期待。米国にてフェーズ2試験を実施中。												
ベタメタゾン	DE-102	糖尿病およびBRVOに伴う黄斑浮腫	オークウッドと共同	日本						(フェーズ2/3)		
ドラッグデリバリーシステムの概念を取り入れたマイクロスフェア製剤で、局所投与により安定した薬効持続性を期待。商業用スケールでの製造技術開発でオークウッド社(米国)と提携。今回、網膜静脈分枝閉塞症(BRVO)に伴う黄斑浮腫を対象とした試験を追加。												
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	自社	米国								
				日本								
既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞伸展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。												
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	第一三共	日本						2011年6月		
				韓国						2011年10月		
ニューキノロン系抗菌薬の高濃度製剤。2011年6月、日本にて発売開始。2011年10月、韓国で承認申請済み。												
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国								
				日本								
免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。米国に続き、2011年12月、日本でフェーズ3試験を開始。												
未定	DE-110	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	自社	米国								
ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象とした、選択的グルココルチコイド受容体作動薬(SEGRA)。												

■医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト／ チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同	日本						
			共同開発	欧州						
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体およびβ遮断剤の配合剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-112	緑内障・高眼圧症	フォレスト・ラボラトリーズ	米国	(フェーズ1/2a)					
高い選択性を持つアデノシンA _{2A} 受容体作動薬。プロスタグランジン系とは異なり、主経路(線維柱帯)からの房水流出を促進する新規作用機序の緑内障・高眼圧症治療剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
エピナスチン塩酸塩	DE-114	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガー インゲルハイム	日本						
H1拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-118	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同	日本				2012年2月		
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤。2012年2月、承認申請済み。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-098 (抗APO-1抗体)	関節リウマチ	セントコア	日本						
RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注剤。セントコア社(米国)から抗APO-1抗体の国内外での開発販売権を導入。										

■ノバガリ開発品の状況(臨床段階)

一般名	開発品名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Cyclokat (シクロカット)	重症ドライアイ	自社	欧州						
				米国						
免疫抑制作用により、重症ドライアイの他覚所見及び自覚症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。										
シクロスポリン	Vekacia (ベカシア)	春季カタル	自社	欧州						
免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。										
ラタノプロスト	Catioprost (カチオプロスト)	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						
				米国						
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の、緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。										
デキサメタゾン パルミチン酸エステル	Cortiject (コルチジェクト)	糖尿病黄斑浮腫	自社	米国	(フェーズ1/2)					
抗炎症作用を有する硝子体内注射剤。										

※ベカシア、カチオプロスト、コルチジェクトの3品は、事業性について評価中。

■2011年度第2四半期発表時(2011年11月1日)からの変更点

開発コード	変更点
DE-085	製造販売承認を取得(オーストラリア)
DE-089	製造販売承認を取得(韓国)
DE-102	網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫を対象としたフェーズ2/3試験を開始(日本)
DE-108	製造販売承認を申請(韓国)
DE-109	フェーズ3試験を開始(日本)
DE-118	製造販売承認を申請(日本)

(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位:百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
設備投資額	912	1,709	2,700	6,210

■減価償却費

(単位:百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
総額	2,084	2,808	2,022	2,950
製造経費	1,107	1,532	1,030	1,530
販売管理費	409	512	330	630
研究開発費	567	762	661	790

(注)長期前払費用の償却費は除いています。

■リース料

(単位:百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
総額	142	156	20	40
製造経費	93	94	2	2

■研究開発費

(単位:百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
研究開発費	9,754	13,221	12,243	16,000
対売上高比	11.9%	11.9%	14.2%	13.8%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。